

一般会計

※以降総額を一致するよう単位未満の数字を四捨五入などで調整しています。

| 歳入 75億3,252万円 (前年度比 +16.0%) | | | 歳出 74億4,138万円 (前年度比 +16.3%) | | |
|-----------------------------|------------|--------|-----------------------------|------------|-------|
| 項目 | 決算額 | 前年度比 | 項目 | 決算額 | 前年度比 |
| 町税 | 15億9,950万円 | △10.1% | 総務費 | 13億9,076万円 | 85.0% |
| 地方交付税 | 24億1,678万円 | 4.5% | 民生費 | 8億6,625万円 | 3.4% |
| 使用料・手数料 | 2億6,572万円 | 4.1% | 衛生費 | 3億4,055万円 | △2.2% |
| 国庫支出金 | 6億2,075万円 | 82.1% | 農林水産業費 | 7億2,546万円 | 45.8% |
| 道支出金 | 1億7,122万円 | 2.3% | 商工費 | 1億1,224万円 | 8.6% |
| 諸収入 | 1億7,104万円 | △2.3% | 土木費 | 9億5,060万円 | 20.2% |
| 町債 | 9億8,250万円 | 16.9% | 消防費 | 3億9,044万円 | 7.7% |
| その他(※1) | 13億0,501万円 | 109.2% | 教育費 | 4億6,813万円 | 4.4% |
| | | | 公債費 | 9億3,119万円 | △0.5% |
| | | | 給与費 | 11億9,240万円 | △4.7% |
| | | | その他(※2) | 7,336万円 | △0.4% |

※1 歳入その他は地方譲与税、財産収入など
 ※2 歳出その他は議会費、労働費など

マチの家計簿

安平町の平成20年度の一般会計及び特別会計の決算については、11月5日(木)・6日(金)に開かれた決算審査特別委員会にて認定されました。

また、12月16日(水)・17日(木)に開催される町定例議会で報告されます。今月は平成20年度の決算のあらましや財政状況についてお知らせします。

町税の内訳と状況

| 区分 | 収入額 | 前年度比 | 徴収率 |
|-------|------------|--------|--------|
| 町民税 | 8億5,343万円 | △14.5% | 96.8% |
| 固定資産税 | 6億7,281万円 | △4.5% | 66.9% |
| 軽自動車税 | 1,257万円 | 4.0% | 93.8% |
| 町たばこ税 | 6,069万円 | △6.9% | 100.0% |
| 合計 | 15億9,950万円 | △10.1% | 81.6% |

解説

一般会計の決算は上の表のとおり、各特別会計の決算については、次ページのとおりです。一般会計及び7つの特別会計を合計した安平町の歳入決算総額は110億4,542万円、歳出決算総額は108億6,780万円となり、どの会計も赤字はありませんでした。

歳入から歳出を差し引いた残額については、一般会計(残額9,114万円)では、3,000万円を財政調整基金に積み立て、6,114万円を翌年度に繰り越しています。また特別会計では、それぞれ全額を翌年度に繰り越しています。

主な事業一覧 (一般会計)

| 事業名【項目】 | 事業費 |
|--|-----------|
| 北町会館建設事業【総務費】 | 4,294万円 |
| ふれあい基金積立事業【総務費】 | 4億円 |
| しののめ交流館改修事業【民生費】 | 5,106万円 |
| 公共牧場用地購入事業【農林水産業費】 | 1億2,840万円 |
| 町道整備事業(安平市街南2条線・追分市街3号線・花園5条線・さつき団地4号線・早来安平線)【土木費】 | 1億2,964万円 |
| 鹿公園周辺整備事業【土木費】 | 4,163万円 |
| 公営住宅整備事業(大町東公営住宅・追分南公営住宅など)【土木費】 | 3億5,930万円 |
| 安平山スキー場圧雪車更新事業【教育費】 | 3,145万円 |

財政指標の状況

先月は健全化判断比率及び資本不足比率についてお知らせしていますが、ここではそれ以外の主な財政指標についてお知らせします。

| 指標 | 平成20年度 | 対前年度 | 全道平均 |
|--------|--------|--------|-------|
| 経常収支比率 | 89.7 | 0.6 | 92.0 |
| 財政力指数 | 0.520 | △0.003 | 0.459 |

※財政力指数は3ヵ年平均、全道平均は19年度

○**経常収支比率**：自由に使える継続的・安定的な財源(収入)のうち、持続的・固定的な経費(支出)に充てられるものの占める割合で、高いほど町が自由に使えるお金が少ないため、一般的には低い方が望ましいものです。

○**財政力指数**：標準的な行政活動のために必要な自由に使える財源に対する税の割合を表すもので、高いほど国などへの依存度が低いので、財政基盤が強いこととなります。